

「第8章 富める者と貧しい者」(課題文献：ピーターシンガー「実践の倫理」)

・要約

この章では、絶対的貧困に対して豊かな者が援助することを、それに匹敵するほど道徳的に重要なものを犠牲にせずにするときは、悪いことを防ぐべきであるという原則から義務とすべきかを考察している。

今日の人類の悲惨の主要な原則として絶対的貧困がある。しかし、現在行なわれている援助は絶対的貧困を救うほどの援助は行なわれていない。生命が危険に晒されている人々に援助する義務が我々にあるのかどうか、またこの義務が現在の世界の状況からどのように扱われているかを考えている。

本章では前半で絶対的貧困におかれている人々を死ぬに任せることと殺すことは本質的に同じことであるかを考察し、そのような人々に対して援助をする義務が我々にはあることの立証を試みている。

前半ではまず「誰かを死ぬに任せること」と「殺すこと」が我々にとってどのように違うかを説明している。内容としては「動機」「困難」「確実性」「特定の」「責任」を挙げている。そして「死ぬに任せること」を正当化できるのかを考察している。しかし、「死ぬに任せること」は道徳的な正当性をもたないとしている。

後半では援助する義務への賛成論として、「悪いことを防ぐことがそれに匹敵するほど道徳的に重要なものを犠牲にせずにできる場合には、そうすべきである」という原則から義務があるとしている。しかし、援助する義務に対しての反論として、

自分自身の面倒を見ること

遠隔地の貧困について考える前に、近しい者、家族、そしてその次に自国の貧しい人の面倒を見るべきだという主張がある。

所有権

暴力や詐欺のような不正な手段によらず獲得した財産であれば、人は他者が餓死する傍らで莫大な富を手にしてよいとするような個人主義的な権利の解釈による主張。

分法の政策

人口過剰を原因として、近いうちにその国民を養っていくことが可能な国、援助したところで、自国で養える程度にまで人口を制限することができないと思われる国は援助する必要はなく、助けのあるなしで、食糧と人口のバランス達成の成否を左右する国を援助すればいいという主張。

政府にまかせておけばよい

高すぎる基準

設定する基準が聖人にしか達成できないような、あまりにも高いものだとする主張。

しかし、これらの反論にもピーター・シンガーは賛成の理論が生き残るものであるとして考えている。

. 引用

第一前提 悪いことを防ぐことがそれに匹敵するほど道徳的に重要なものを犠牲にせずにできる場合には、そうすべきである。

第二前提 絶対的貧困は悪いことである。

第三前提 絶対的貧困には、それに匹敵するほど道徳的に重要なものを犠牲にせずに防ぐことのできるものがある。

結論 そうした絶対的貧困を防ぐべきである。

(P 277 ~ 278)

- ・ 第一前提は悪いことを防ぐべしという命令が適用されるのは、それに匹敵するほど重要なものが何も代償にされない場合に限られるから明らかであるとしている。
- ・ 第二前提は道徳的に否定されることはないであろう。「人間の品位のいかなる理にかなった定義にも満たない」のが絶対的貧困であるからだ。
- ・ 第三前提は前半で絶対的に豊かな者は絶対的貧困を救うに足るだけの所得があるということを説明してきたから明らかである。
- ・ 結論については直接的な説明はなされていない。しかし、「絶対的貧困を救わないでいることは殺人をすることとの明確な違いはない」、また「救うことは道徳的に明らかである」ということからこのような結論が主張されているように思えた。

. 論点

- 1 殺すことと死ぬに任せることは同義だと思えますか？
- 2 絶対的貧困と道徳的に重要でないものはどちらが大切だと思えますか？
- 3 所有権を武器に道徳に反することは正当化できると思えますか？
- 4 政策や宗教の理由で人口増加を制限しない国への援助をしないことは不正だと思えますか？